

1 年

2 学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○対話(特に聴くこと)を大切にしようとしている生徒が徐々にではあるが増えてきている。特に集会における生徒の姿勢と視線はとても良くなっている。</p> <p>▲時間を意識し行動できる生徒は増えてきているが、まだまだ満足できるものではない。また、授業の準備(心・道具)に関してほとんどの生徒ができていない状況である。</p>
2 学習指導全般	<p>○多くの生徒は、概ね落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>○推進委員と連携して、2分前着席、授業の開始、終わりの挨拶の意識を高める指導ができた。</p> <p>○学習コンテストの取り組みにより、家庭学習の内容の改善を計ったり、学習に自信を持った生徒が見られた。</p> <p>▲学習意欲が低く、板書の内容を十分に記述できない生徒が一部見られる</p> <p>▲提出物が滞る生徒が一部見られる。まずは、とにかく提出させる指導が必要である。</p> <p>▲基礎・基本が身に付いていない生徒に対して、個別の支援が必要である</p>
3 特別活動全般	<p>○前期の推進の取り組みを後期でもレベルアップした形で継続的に行い、全体の意識を高めることができた。</p> <p>○取り組みを素直に頑張れる生徒が多かった。</p> <p>○行事を通して、全体で頑張ろうという良い雰囲気を作ることができた。</p> <p>▲リーダーとしての行動を自ら考えて行うことができなかった。</p> <p>▲取り組みの目的を明確に理解し、参加できている生徒が少なかった。</p>

3 学期以降の重点指導項目
<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期に引き続き、どのような場面でも聴く姿勢と視線を意識させるとともに、2年生に向けて自分の想いを他者へ伝えることにも目を向けさせたい。 ・チャイムスタートの徹底は継続させながら、チャイムまでの準備を意識させる。良い授業を作る為には準備(心・道具・体)が大切だということを伝えていく。 <p><学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物を徹底するために、教科担当と担任で連絡を取り合い、生徒に呼びかけていく。 ・各教科の授業の中でも自学ノートの利用を呼びかけていく。 ・自学ノートで優秀なものは学習日よりで紹介していく。 <p><特活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしての心構えや行動を身につけさせる。 ・取り組みを行う際にその目的をリーダーだけではなく学年全体で共通理解して行っていく。

2 年

2 学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○人に対する嫌な行動は、大幅に減っている。</p> <p>▲自問清掃は、教師の指導が必要であり、特に黙想までの準備が遅いため全体として騒がしく感じる。目的意識を持たせることができれば、改善が期待できる。</p>
2 学習指導全般	<p>○チャイムスタートなどは、推進委員会の企画とタイアップして取り組み、推進委員が中心となって声をかけて意識しようとしていた。</p> <p>○授業が分かりやすいが81%、授業のルールを守って、授業に参加しているが90%である。昨年より分かりやすいと感じる授業づくりができています。</p> <p>▲家庭学習時間は2時間以上、1～2時間未満の生徒が42%で、中間48%よりさらに減少した。今日の宿題や、課題が具体的に何であるかホワイトボードに示す取り組みをしたが、成果に結びつかなかった。学年の実態を踏まえて、曜日で教科ごとに宿題を明確化するなど手立てが必要である。</p> <p>▲「計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」が44%で、中間48%より減少した。定期テスト前の計画だけでなく、普段の学習においても計画的な学習及び学習方法の確立が、昨年来の課題である。校内研究とタイアップして、自学ノートの取り組み方や授業の受け方について学校全体で取り組んだが、成果に結びついていない。生徒が「計画的に学習ができています」と実感することができる具体的な方策を考え、実行する必要がある。2月下旬からのシート学習をその1つの方策としたい。</p>
3 特別活動全般	<p>○運動会や合唱コンクールなどの学校行事では、それぞれのリーダーが周囲を引っ張ろうと頑張り、周囲もリーダーの思いに応えようとする姿が見られた。</p> <p>○行事の振り返りによって、お互いを認め合える機会となっていた。（「自分にはよいところがある。」中間62%→年間64%）</p> <p>○推進企画で号令の取り組みを粘り強く行ったため、企画終了後も気持ちの良い授業スタートをきろうとする意識や協力姿勢が継続している。</p> <p>▲リーダーとその他の層の意識の二極化が見られたため、フォロワー育成に注力する必要がある。1学期よりも互いに声を掛け合う姿は少しずつ増えてきた。そのため、推進以外のリーダーを巻き込んだ企画や、互いに声を掛け合う企画を通して、フォロワー育成を図りたい。</p>

3 学期以降の重点指導項目
<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな場面で自問清掃の意義を説き、継続的に意識付けを図るとともに、自問清掃の開始時に自ら正しく判断して行動できるように学年全体で声かけを継続していく。 <p><学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化と学習方法と質の向上を図る。 ・個別支援の必要な生徒の共通理解をはかり、現状より少しでも良くなる指導を行っていく。 <p><特活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や推進企画を通してリーダーを育てるとともに、集団の中で共感的人間関係を育みながら、リーダーをサポートするフォロワーの育成も図る。

2学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○「学校のルールやマナーを意識して過ごしている」生徒が96%、「自分からあいさつをしている」生徒が84%、「自問清掃をねらいに沿って取り組んでいる」生徒が79%と肯定的評価が中間評価よりも上昇しており、多少の意識改善が見られた。</p> <p>○多くの生徒が受験生としての姿勢や行動を意識するようになり、学級や学年の雰囲気も少しずつ良い方向へと変わっていった。</p> <p>▲一部の生徒の授業中の姿勢の整わない生徒、登校時間などの時間に対する意識が低い生徒がいる。</p> <p>▲自問清掃に対する肯定的評価が上昇したが、低い水準である。今後はより一層、自ら考え行動するという力が必要になってくると思われる。卒業までに高められるように指導していく。</p>
2 学習指導全般	<p>○「授業はわかりやすい」という生徒の割合が84%（中間80%）に向上した。課題の工夫等の授業改善の成果が表れていると考えられる。</p> <p>○グループ活動等の学び合い活動に積極的に活動する姿が見られた。</p> <p>○志望校合格に向けて、授業等での課題への意欲は次第に高まり、全員で学習しようという雰囲気が出てきた。</p> <p>▲総合テストでは全体的に平均から低かったが、2回目はその差が縮まった。</p> <p>▲朝学習等で学習内容の復習をしている。しかし、1・2年生の学習内容の理解と定着が不十分であるため、理解が進まず、成績が伸び悩んでいる。</p> <p>▲受験が近づいてきても、意欲が見られない生徒がいる。</p>
3 特別活動全般	<p>○運動会や合唱コンクールでは制限がある中で、主体的に活動に参加し、達成感を得られる結果であった。</p> <p>○推進委員企画「家庭学習時間UP!」「2分前着席」や給食委員企画「45分合掌」などに積極的に取り組みに参加した。各クラス、学年全体でよりよい集団になろうとリーダーやサポートする生徒も工夫し、結果として、落ち着いて学校生活を送れるようになった。</p> <p>▲「生徒会活動に関心を持ち、進んで参加している。」の数値が、73%と微減した。受験期に差し掛かり、自分たちに厳しく評価する者が増えたと思われる。</p>

3学期以降の重点指導項目

<生活>8:10登校、挨拶、聴く姿勢、身なりについて、継続して取り組む。

<学習>学習面での個別支援(自学や質問ができる学習環境を整える)。

受験に対応できる活用力の向上を意識した授業および3年間の総復習に取り組む。

<特活>推進委員会の取り組みを中心に、学校や友達の良さ、自分の良さに気付き、互いに認め合える場面を設け、高め会える雰囲気を構築していく。

<進路>進路決定に向けて、情報の提供や相談、受験準備などを丁寧に行う。

教務部（年間評価）

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果</p>	<p>【教職員】 ※いずれも肯定的評価の数値。 （ ）内はR4中間、【 】はR3年間評価の数値 (1) 本年度の重点目標を意識して、学校経営に参画している。 ・・・84% (88%) 【91%】 (2) 各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している。 ・・・82% (88%) 【94%】 (5) 最終退校時刻（19：30）を意識して、業務に取り組んでいる。 ・・・81% (81%) 【79%】 本年度の中間評価と比較し、「重点目標」を意識した運営参画、「会議」の有効性が減少した。「最終退校時刻」は変化なし。 【生徒】 (1) 学校が楽しい。 ・・・85% (85%) 【82%】 内訳 1年 86(85)【78】% 2年 82(80)【83】% 3年 88(87)【86】% (18) 学校からのお知らせや各種たよりを確実に保護者に渡している。 ・・・77% (78%) 【79%】 内訳 1年 75(78)【76】% 2年 75(77)【81】% 3年 81(79)【81】% 「学校が楽しい」に関しては全学年で、中間評価よりも向上した。 「おたより」に関しては1・2年生で減少した。 【保護者】 (1) お子さんは安心して学校生活を送っている・・・94% (93%) 【91%】 内訳 1年 95(94)【91】% 2年 94(93)【89】% 3年 95(94)【95】% (8) 各種たより、ホームページ、PTA 行事などから学校の様子がわかる。 ・・・81% (78%) 【79%】 内訳 1年 80(78)【79】% 2年 77(78)【77】% 3年 87(79)【82】% 「学校が安心」に関しては全学年で、中間評価よりも向上した。 生徒アンケートとの整合性も見られる。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【重点目標】・【会議の有効性】 重点目標、会議の有効性共に必要性を共通理解する必要がある。 【楽しい・安心】 全学年で生徒、保護者からの数値が向上した。日常の授業や先生方の生徒への関わり、細やかな保護者対応の成果だと思われる。しかし、生徒、保護者ともに「全くあてはまらない」が0%ではない。 【情報発信】 生徒の肯定的意見はほぼ変化がないが、保護者には学校の様子がこれまでよりも伝わるようになってきている。ホームページ、メール配信の成果だと考えられる。生徒の現状はしっかり受け止める必要がある。 【最終退校時刻】 肯定的評価の値は変わらないが、「よくあてはまる」は向上した。</p>
<p>3学期以降の重点項目</p>	
<p>○運営委員会で各主任と2学期末に実施した、「次年度に向けての改善点」についてのアンケートを整備し、この「改善点」をしっかりと検討していくことを会議の軸とすることを確認し、今後の会議を実施していく。</p> <p>○数値の低い項目への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に配布物の重要性をしっかりと行う。学年主任による学年職員への呼びかけ。 <p>○数値が向上した項目の継続的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しく、安全な場所であるために、さらに何ができるのか分掌を超えて検討する。 <p>○業務改善に向けて、年度末のアンケートの活用、何が実行できるのかよく検討していく。</p>	

研究学習部（年間評価）

<p>生徒、保護者、職員アンケート結果より</p>	<p>【教職員】 ○授業のルールや聴く、姿勢に関する項目は中間評価より+5、前年度より+3%で上昇している。また、「分かりやすい授業となる工夫や改善をしている」という項目は100%の先生が肯定的回答をしており、授業改善への意識が高まっている。しかし、依然として家庭学習の項目では前年度-28%であり、低下が止まらない。 ○根拠や理由を加えて表現する指導に関する項目では、中間+4%だが、前年度と比べると横ばいである。</p> <p>【生徒】 ○「授業が分かりやすい」の項目が上昇し、全校生徒の84%が肯定的回答である。しかし、「計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の項目では中間評価よりは+3%であるが、前年度-9%である。「平日一日あたりの家庭学習時間」の項目では、学年により数値のばらつきが大きい。</p> <p>【保護者】 ○教職員や生徒の傾向と変わらず、授業が分かりやすいという項目では数値が上昇しているが、家庭学習の習慣がついているという項目では数値の低下が見られる。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【学習指導】 ○教職員の授業改善への意識が上昇してきたことで、授業規律や授業スタイルへの意識が高まり、分かりやすさが増している。 ○認める・認め合う活動の活性化により、主体的に授業に参加できるようになってきている。 ▲認める・認め合う活動と授業のねらいを結びつけていくことで授業内で根拠や理由を適切に加えて表現できるようにしていく。 ▲家庭学習の取り組みについて、1・2年生は自学ノートや週末課題と普段の授業をどのように繋げていくか、具体的な指示やモデルが必要である。また、授業内で「これだけは」というポイントを伝え、そのポイントを定着させるための課題・自学ノートという位置づけも考えられる。 ▲計画を立てて学習を進めていくことについて、定期テスト時のみでなく、普段の学習においても、一日の時間の使い方や、一週間を通しての計画の立て方などを生徒と共に考えていくことも必要である。</p> <p>【キャリア教育】 ○職業講話・ジョブカフェ訪問など自分の進路を考える機会を設定することができた。 ▲キャリアパスポートの活用について、共通理解して進める必要がある。</p> <p>【道徳・人権教育】 ○学校評価アンケート（生徒）の「道徳の授業で自分の考えを持ち、他の生徒の意見を聞いて考えが深まったことがあった。」の数値が86%となっており、学び合いが充実していることが予想される。 ▲授業や評価に関して継続して検討する必要があると共に、道徳に関して話し合う場を設定することも考える必要がある。</p> <p>【情報教育】 ○授業や家庭内で生徒がクロムブックを携帯させることで、クロムブックを用いた学習の機会を大幅に増加させることができた。 ○クロムブックの活用方法を職員間で研修したり、授業実践を報告したりするなどして、授業での効果的なクロムブックの利用の促進につながった。 ▲「休み時間はクロムブックを使用しない」などのルールを徹底させていく必要がある。</p> <p>【図書館教育】 ○学校評価アンケート（生徒）の「読書が好きである」の数値が73%で、昨年度より2ポイント上昇、貸出冊数も増加した。（2022年4～12月：10,906冊、2021年同期間：10792冊） ▲授業での図書館の利用は少なかった。来年度以降、「図書館利用年間計画」にあげられた学習に合わせた図書リストを「野っ中図書館クラスルーム」に提示し、利用を促したい。</p>

3学期以降の重点項目

- ・授業のねらいと認める・認め合う活動をつなげていく取り組み
- ・学習方法や時間の使い方の指導も含めた、基礎・基本の定着のための家庭学習の位置づけの工夫
- ・ICTをより効果的に使用していくための研修の充実

生徒指導部（年間評価）

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果 より</p>	<p>※数値は肯定的回答，（）内は今年度中間評価の数値</p> <p>【生活規律】 T「生徒はルールや決まりを守って学校生活を送っている」75%↓ C(83%) S「学校のルールや社会のマナーを意識して，過ごしている」93% A(93%) P「交通ルールやマナーを守って登下校時の安全に心がけている」98% A(97%)</p> <p>【あいさつ】 T「生徒は，自分から挨拶や会釈ができる。」35%↓ D(40%) S「自分からあいさつをしている。」80% B(81%) P「お子さんは，自分から挨拶を心がけて行っている」76% C(75%)</p> <p>【対応・相談】 T「不登校の生徒に対する指導が組織的・効果的に行われている」 85%↓ A(93%) S「学校には，悩みを相談する先生や大人がいる」62% D(62%) P「学校は，保護者からの連絡や相談に誠実に対応している」 94% A(93%)</p> <p>【自問清掃】 T「自問清掃は，生徒の自主性・自発性の育成につながっている」 52% D(53%) S「自問清掃をねらいにそって取り組んでいる」77% C(76%)</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【生活規律】 △ルールや決まりを守ることについて，中間評価と比較すると悪化している。一部の生徒が時間を守れない等の基本的な生活習慣が身につけていないことがあげられる。ルールの見直しが必要な事柄については，見直しも含めて検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の回答と教師のそれに差がみられる。この差の理由について，検証していきたい。 <p>【あいさつ】 ・教員の評価が著しく低い。一方で生徒や保護者の評価には変化がない。会釈をする生徒，マスクの下で挨拶をしている生徒もいるが，なかなか気づきにくいことも原因と思われる。</p> <p>【対応・相談】 △不登校の生徒数が増加し，すべてのケースに個別対応ができなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「悩みを相談できる～」の項目については，1年66%，2年57%，3年61%となっている。2年生の結果の低さに焦点を当てて改善策を考えていく。 <p>【自問清掃】 ・教員の評価が昨年度から下がったままである。</p>

3学期以降の重点項目

- 【生活規律】**
- ・時間を守ることの指導と取組の実施
 - ・必要があれば，校則の見直しも検討する。
- 【あいさつ】**
- ・生徒会や委員会によるあいさつの取組を3学期も継続して計画・実施する。
- 【対応・相談】**
- ・2年生を中心に，大人と子供が話をする時間の設定を積極的に行う。
- 【自問清掃】**
- ・教師への自問清掃の目的の周知や取組ませ方の具体的な方法について，職員会議等で共有する。

特別活動部（年間評価）

<p>生徒、職員の アンケート結果 より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動に進んで参加しているという生徒は70%程度で前期との比較、経年比較でも大きな差はなかった。 ・あいさつについては教職員と生徒の意識、とらえ方に大きな違いがある。この違いをお互いに理解するための取組を実際に行っていく必要がある。
<p>成果と課題</p>	<p>【生徒会】生徒会役員が主体的に企画・運営する活動をより多く取り入れたい。そのためには、生徒が「自分が動くことで学校生活が変わる」という自己の影響に関する前向きな認識になっている必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒が真に解決したい課題を引き出すこと。 ② その課題解決の目的を明確にすること。 ③ その目的のための手段として学年での活動を企画立案・運営すること。 ④ その結果を受けて、自分たちの言動を絶えずアップグレードする姿勢を持つこと。 <p>の①～④が日常的に行われるようにしたい。</p> <p>【委員会】生徒会の項目と同様。それに加えて、常時活動（学校生活上に必ず要るもの）に自己有用感を持たせる工夫をしたい。</p> <p>【推進委員会】生徒会の項目と同様。</p> <p>【学級活動】学校生活の基盤であるのが学級であり、学級集団での活動の質はそれほど高まったとはいいがたい。（給食委員会の45分合掌企画や自問清掃の取り組みなどが重要な指標）</p> <p>特別活動というと委員会や生徒会、行事のイメージがあるが、学校生活で最も長い時間を過ごす集団が学級であり、学級での活動の質の高まりを教員全体で意識して取り組む必要を感じた。</p>

3学期以降の重点項目

- ・毎日給食45分合掌を目指す。
- 担任・級外として学級集団の意識をどう高めていくか、実行させていくかの工夫を教師それぞれが考えることで、生徒集団をまとめる力が向上する。